

小笠原空港開設・航路改善特別委員会速記録

平成24年9月13日（木曜日）午後2時開会

出席委員（7名）

委員長	池田望君	副委員長	一木重夫君
委員	高橋研史君	委員	片股敬昌君
委員	鯉江満君	委員	杉田一男君
委員	稲垣勇君		

委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	江尻康弘君
総務課副参事	鈴木敏之君	総務課企画 政策室長	湯村義夫君
財政課長	今野満君	村民課長	斎藤実君
村民課副参事	村井達人君	医療課長	樋口博君
産業観光課長	渋谷正昭君	自然管理 専門委員	岩本誠君
建設水道課長	増山一清君	建設水道課 副参事	篠田千鶴男君
母島支所長	箭内浩彌君	出納課長	菊池元弘君
教育課長	佐々木英樹君		

事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

議事日程

- 日程第1 小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について
- 日程第2 小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について
- 日程第3 要望書の提出について
- 日程第4 その他
- 日程第5 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

- 委員長（池田 望君） ただいまから小笠原空港開設・航路改善特別委員会を開会します。
出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午後2時）

◎会議時間の延長

- 委員長（池田 望君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。
-

◎小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について

- 委員長（池田 望君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、6月定例会以降の小笠原空港開設に関する経過報告及び今後の対応について、執行部からの報告、説明を求めます。

総務課企画政策室長、湯村君。

- 総務課企画政策室長（湯村義夫君） それでは、航空路開設に向けた動きということで、平成24年第2回村議会定例会以降の報告をいたします。

6月20日、小笠原村における民生安定化懇談会より、「小笠原空港滑走路の小笠原村に対する提言書」及び「村民生活と自然環境との両立に関する意見」が村長あて提出されました。

7月13日、小笠原航空路検討に関する情報交換会の開催をいたしました。

7月24日、村長が東京都安藤副知事、秋山副知事、前田知事本局長、中井財務局長、中西産業労働局長、多羅尾港湾局長、前田港湾局技監、渡辺離島港湾部長、砥出行政部長を訪問しております。

また、8月27日から30日にかけて、国土交通省国土政策局岡野特別地域振興官が来島されております。

報告は以上でございます。

- 委員長（池田 望君） ただいまの報告、説明について、質疑、意見のある委員は挙手をしてください。それ以外でもいいですよ。

杉田一男委員。

- 委員（杉田一男君） この「村民生活と自然環境との両立に関する意見書」、中身はどうい

う話なのか教えてください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私どもの小笠原村が独自に行ってまいりました航空路の調査、最終報告の案に、洲崎案ですね、村の案でございます。基づきまして、各それぞれの専門家からご提言をいただいたというものでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 端的には、村民生活と自然環境との共存を図る意味でどういうことが必要なのかという形という解釈でよろしいですか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 民生安定化のために、村民の安心・安全のために、航空路の開設が必要と考えているところがございますので、私どもはそういうふうと考えているところがございますので、委員ご指摘のとおりのことでございます。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

佐々木幸美議長。

○議長（佐々木幸美君） 先日、国交省の岡野特別地域振興官が来島されたんですけれども、いろいろな話がされたと思うんですけれども、村長は振興官に対して航空路の問題についてはお話しなさったでしょうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） こちらに来島される前にご挨拶に行きましたときに、懸案事項の一つとして申し上げたところがございます。また、当該洲崎につきましても、ご視察をなさったはずでございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 今年度はP I協議会の開催が予定されていますかどうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私のほうでは、従来お答えをしていますとおり、7月の人事異動も終わりましたので、しかるべきときに開催をしていただけるよう要望しているところがございます。

○委員長（池田 望君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 航空路の推進に当たっては、やはり国の政策であるこのP I協議会を進めることが基本的な考え方ですので、ぜひこれを早い時期に開催できるように村長も

お骨折りいただきたいと、こう思っております。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） そのように、また働きかけていきたいと思えます。

○委員長（池田 望君） 高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） もう一度確認させていただきたいことがございます。この民生安定化懇談会を設置した目的をもう一度再確認させてください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私は、民生安定のための航空路の開設は小笠原の今後の発展のためにも不可欠だという考え方で、何とか航空路の開設をということを願ってまいりましたし、今、私の中の最大課題の一つとして取り組んでいるところでございます。

過去のいろいろな経験から、あらゆる方々のいろいろな意見を聞き、推進をしていくための一助にするために有識者の方のいろいろなご提言を私にいただき、私が今後の活動のための一つのカードといいますか、そういうようにしていきたいというのが目的でございます。

○委員長（池田 望君） 高橋研史君。

○委員（高橋研史君） この懇談会より1本の提言書と、もう一本の「村民生活と自然環境との両立に関する意見」と、1つの投げかけに対して2つ、提言並びに意見が出てきたんですけれども、後者のほうの意見が出てきたという背景は何なんでしょうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 世界自然遺産に登録をされると、お客様もいろいろ増えてくるだろうと。それから、そういう際に対して、いろいろな懸案事項も生じてくるだろうということ、ですから、私のちょっと説明が足りなかったかもしれません。航空路の推進だけではなくて、そういうことのアドバイス、ご提言もいただいたということでございます。

○委員長（池田 望君） 高橋研史君。

○委員（高橋研史君） 何か私にしてみると、大変申しわけない言い方かもしれませんが、お願いしていなかった意見まで出てきたように思うんですけれども、村長としては、この意見をどのようにとらえておりますでしょうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私は、こういう言い方が正しいかどうか、いいかどうかちょっとわかりませんが、願っているものばかりでなく、多少私にとって辛口な提言があっても、そ

れが意味のあることだと、私はそのように受けとめております。

○委員長（池田 望君） 高橋研史君。

○委員（高橋研史君） 一応この提言書という形で懇談会、結論を出したと思うんですけども、以後この懇談会はどうなるのでしょうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 私に対してもご提言をいただきましたので、この懇談会についてはもう閉じるということでございます。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。

一木重夫副委員長。

○副委員長（一木重夫君） 航空路の今後という部分で、いろいろ聞いていきたいんですけども、過去、小笠原村は航空路開設基礎調査ということで、その1からその5ということで平成14年度から平成18年度まで基礎調査をやっております。その中で具体的な機種であるとか具体的な滑走路長であるとかというのを細かく調査をしておりますけれども、その中で、機種の部分で、機種選定の諸条件として将来可能性のある機種等の未開発機種は除くというふうに書かれてあります。

平成18年度の時点で将来有望な機種は、その時点では検討をしないという、そういう調査であったと思います。あれからもう五、六年たっているわけですし、技術というのは日進月歩で進んでおります。あのときパソコンのハードディスクが60ギガだったのが、今ではもう500ギガになっているような時代になっております。今後、将来可能性のある機種、もしくはもう既に新開発されている機種で今後調査をやっていく姿勢があるのかどうか伺います。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今のご質問の直接的な答弁の前にお話をさせてください。

あのときに将来どういう機材が出てくるかということを調査の骨子に入れなかったのは、本当に小笠原に航空路の開設は日本の航空法に基づいてできるかどうかという調査をあのときはいたしました。したがって、現実的なものでなければ、それは先々どんな機材が出てくるかはわからないわけですから、そういう意味でのことでございます。それをもとに、可能性のあるものの中で滑走路の延長とか、そういうことを想定していますので、これからは例えばその滑走路に見合う機材だとか、そういうものが出てくる可能性というのはあるわけですから、調査をするしないと今の時点で決めているわけではございませんが、そ

ういう可能性を否定していることではないということでございます。

当時、調査をするに関しては、本当に小笠原に航空路はできないだろうかということが一番の主眼でございましたので、そういうような形での調査があったということでご理解をいただければと思います。

○委員長（池田 望君） 一木重夫副委員長。

○副委員長（一木重夫君） 平成15年度の基礎調査を見ますと、本当に小さな飛行機から検討をされていて、その中では滑走路も短いやつを調査していました。それが、いろいろな流れがありまして、その滑走路長が増えていたり、機種が絞られていたりというような調査の流れになっておるんですが、最近、新たな流れとしてビジネスジェットというものが世界ではやっています、続々と新しい機種、滑走路長が短くてスピードも速いと。ただし、乗れる人数は少ないという新しい機種がいろいろと出ております。

資料として皆さんにお渡ししておるんですが、その一例としてホンダのビジネスジェットというのがもう型式認定もとりまして来年度からリリースされることがもう決まっております。今日、ホンダに直接電話をして聞いてみたら、離陸の距離も951メートル、着陸距離も762メートルと、短い滑走路でも飛べるというお話を伺いました。

それと、あと採算の問題も当然出てくると思うんですけども、これは日本経済新聞に載っておったんですけども、アメリカでこういうビジネスジェットというのはすごくはやっておるんですが、大体1時間単価2,000ドル、日本円にすると16万円ほどです。速度が700キロなので、大体小笠原で換算すると1.5倍になって、これが24万円、6人で割ると片道4万円という計算になります、単純に計算すると。決して何か夢物語の話ではないのかなというふうに感じております。今後、こういう新しい機種の調査を進めてみてはどうかと思っておるんですが、村長の考えをお聞かせください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 今、一木委員のご指摘のあった新しいものについての調査というものを、先ほども申し上げましたように私は否定をするものではございません。しかしながら、滑走路があつての物種でございますので。

村役場の調査の話でもう少しつけ加えさせていただきますと、村役場があつた調査で可能性を見出すまで、小笠原の航空路は本当に風前のともしび、もうだめではないかということまで行きました。ところが、村で調査をやって、こういう可能性もあるというところから、東京都も改めて今の段階に来ているわけでございますので、まず村は村の案を持っ

ていますが、東京都は東京都で調査をしています。先ほど杉田委員から早く協議会を開催と。そういう中で一日も早く設置場所ですとかというものを決めるようなところにこぎつきますれば、今、一木委員のご指摘のようなことがいろいろな形で可能性の調査をするし甲斐が出てくると思います。もしくは、もしくはですよ、我々が願っているものが、いわゆる定期航路として小笠原の航空路の開設が難しいとなったときに、次善の策はないのかということも考えなければいけません。そういうときにもその可能性というのは出てくるのではないかと、このように現状では考えているところでございます。

○委員長（池田 望君） いいですか。ほかに質疑はございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 遅々として進まない航空路開設に向けて、私は村長は村長なりに東京都や国に対する戦略的な考え方を多分お持ちだと思いますけれども、やはり一番怖いのは村民の皆さんの熱意がどんどん下がっていくのではないかと。そういう意味で、前から民間活用がぜひ必要だという形で言ってきましたけれども、民間活用に対して今後もしこういう形でぜひ盛り上げていくものを含めて進める考え方があるというのがあれば、村長でも政策室長でもいいですので、答弁してください。

○委員長（池田 望君） 総務課企画政策室長、湯村君。

○総務課企画政策室長（湯村義夫君） 杉田委員のおっしゃるとおりに、地元側の航空路に対する熱意というようなものが欠けていけば、幾ら対東京都あるいは対国と村のほうでいろいろと活動、要望してもなかなか進まないというのはご承知のとおりでございます。

そうした中で、やはり何とか住民の方たちに航空路の開設に向けて熱意を持っていただけるように、そういった観点から情報の提供とか、あるいは話し合いの場を持つとか、初めは小さなコミュニティ団体とのやりとりとか、そういったところから始まるかもしれませんが、何とか一つ一つそういったものを積み上げていながら、大きな盛り上げに持っていきたいなというふうに考えております。その方法、手法については、当然、村長をはじめ、いろいろな方に相談させていただきますが、また議員の皆様にも改めて相談させていただきながら、何としてでも盛り上げる方法をとっていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑はございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これに

ご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長(池田 望君) 異議なしと認めます。

◎小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について

○委員長(池田 望君) 次に、日程第2、小笠原航路改善に向けた経過報告及び今後の対応について、執行部から報告、説明を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長(江尻康弘君) それでは、海路アクセスの向上につきましてご説明をさせていただきます。

最初に、おがさわら丸についてでございます。

平成24年7月7日、父島発便から2等船室の寝具がマットレス及びかけ布に変更されております。

7月12日、小笠原海運株式会社との打合せにおきまして、かねてより、村民が乗船できないことがないようにすること、及び病気やケガ等の緊急用に船席を確保していただきたい旨の村からの要望に対しまして了承をいただいております。また、公共事業や村民生活にかかわる用務で乗船する事業者の船席の確保につきましても要望を行っております。

次に、おがさわら丸新造船に向けた動きでございます。

平成24年6月13日、都議会第2回定例会一般質問におきまして、三宅正彦議員が小笠原航路の現状を踏まえた一層の改善及び新たな船の建造についての質問に対しまして、笠井謙一総務局長から、東京都離島航路地域協議会では、新おがさわら丸建造については中期的な課題の一つとして検討されている、また小笠原村や運航事業者をはじめとする関係者と幅広い視点で改善に向けた調整を行っていくとの回答がございました。

6月27日、東京都離島航路地域協議会平成24年度第1回協議会におきまして、村長が、新おがさわら丸建造については中期的な検討から早急に検討する課題として取り上げていただくよう理解、協力を求める要望をしております。

また、8月2日、平成25年度東京都予算要望におきまして、先ほど総務委員会でもご説明をさせていただいておりますけれども、小笠原航路における新造船建造の早期実現に対する支援が提出されております。

次に、燃料油価格変動価格調整金につきまして、おがさわら丸の燃料油価格変動価格調整

金の推移、また、ははじま丸の燃料油価格変動価格調整金の推移を資料として添付してございます。現在わかっておりますのが平成24年11月までのゾーンでございます。

説明につきましては以上でございます。

○委員長（池田 望君） 執行部の説明は終わりました。質疑のある委員は挙手をしてください。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 小笠原にとり、超離島ということから、空路・海路の交通アクセスの重要性は当然村長もご承知だと思います。そういった中で、航空路が開設されるまでは海上交通アクセスというのは非常に大事なものだと思っております。世界遺産になり、来島者が増え、今までは不便さを感じなかったおがさわら丸も、いろいろな部分で不具合が生じてきて、小笠原海運においてもいろいろと改善点を行ってきました。しかし、もう既存にできている船を改造するといっても、もう範囲は限られている。そういった中で、おがさわら丸の代替船建造というのは非常に大事な話だと思います。また、村長もそれがわかっているから、東京都等にいろいろな建造に対する支援を求めてきたんだと思います。

やはり先ほど村長も言っていますように民生安定化の一助は、一助というか、本分は多分アクセスだと思いますので、そういった観点からも、代替船の建造というのは大事であります。必要性に迫られれば、やはり重要性からいったら最重要課題と位置づけてもおかしくないと思っております。世界遺産になってからの小笠原の発展ぶりをこの先も維持していくためにも、ぜひ代替船の建造は前向きに進めていただきたいと思っております。

そういった中で、ちょっと村長にお聞きしますけれども、村長なりにいろいろなところで課題として提言し、理解、協力を求めたと。東京都に対しても要望したんだと。そういった中で、今、現段階で村長がこの代替船の建造について得ている感触、これからの考え方をちょっとお聞かせください。

○委員長（池田 望君） 村長、森下一男君。

○村長（森下一男君） 当該、まず運航業者、そして東京都、それから友島の伊豆七島の皆さん、大変好意的に、また協力的に受けとめていただいていると思っております。先ほど事務方が報告をしましたように、日時を追って段階も踏んでおりますので、あと一押しのところに来ているんだなという感触を持っているところでございます。

（「その取り組みはどうか、村長の考えからすると」との声あり）

○村長（森下一男君） 前回、議長とも上京した際、各方面にも、都議会のほうも回りまして、いよいよ具体的に行動を起こす時だ、取り組みとしては、そういう時期だ、タイミングだというふうに思っております。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。

片股敬昌委員。

○委員（片股敬昌君） この燃料価格の動きがずっとありますね。これを見ていて私、感じるのは、普通、企業というのは燃料価格の安いときに大量にストックして、それを放出していくというのが普通の企業のやり方ですよ。これは小笠原海運がどの程度の力があるのかわかりませんが、そういう対応というのはやっておられるのかご存じでしょうか。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 小笠原海運の持ち船でいいますと、おがさわら丸だけでございますので、今、片股委員のご質問の趣旨が、例えば安いときに燃料を買ってどこかにストックをしているかというようなことであるとしたら、それはしていないというふうに思います。市場価格の中で、どこから買っているか、事務方で調べればわかりますが、購入をしているんだと思います。

○委員長（池田 望君） 片股敬昌委員。

○委員（片股敬昌君） また、続きになりますけれども、例えばペルシャ湾で何かあったという場合には相当な価格の上昇ということが考えられますね。価格が上がっても、航路というのは中断できませんから、当然走らせなければいけない。国としては、やはりある程度のストックは当然とっていますけれども、そういう場合の対応ということも、小笠原海運と一緒に考えておく必要があるんじゃないかというふうに思いますけれども。

○委員長（池田 望君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） そういう意味での燃料油の購入については、国の今言ったようなストックもありますし、当然、小笠原海運も考えていると思います。

それで、どうしてもこれは世界的な情勢に左右されて燃油がぐっと高騰するという事は、市場原理の中でありますので、このように1から8とか7とかと、今年1年でも動くわけでございます。村民生活ということを考えますと、私どもはプラス6ゾーンを3カ月以上続くようであれば、補助金を以前やったことがあるんですけども、村民に対しては補助金を村では出すということで、これは議会のほうの承認も得ておりますので、村民生活への影響を考えて、当面といいますか、今そういう手だてだけはしているところで

ございます。先行きの片股委員ご指摘のご心配については、小笠原海運のほうともいろいろお話はさせていただきたいと、このように思います。

○委員長（池田 望君） ほかに質疑のある委員は挙手をしてください。質疑はよろしいですか。

（発言する者なし）

○委員長（池田 望君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。
よって、質疑を終了いたします。

◎要望書の提出について

○委員長（池田 望君） 次に、日程第3、要望書の提出についてをお諮りいたします。

お手元に配付の要望書（案）のとおり村長と連名で新おがさわら丸の早期建造についての要望書を東京都知事に提出したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認め、要望書を提出することとします。

◎その他

○委員長（池田 望君） 次に、その他事項で何かございますか。

（発言する者なし）

◎閉会中の継続調査について

○委員長（池田 望君） ないようですので、次に、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するため、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることと決定いたしました。

◎閉会の宣告

○委員長（池田 望君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（池田 望君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、小笠原空港開設・航路改善特別委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

（午後2時35分）